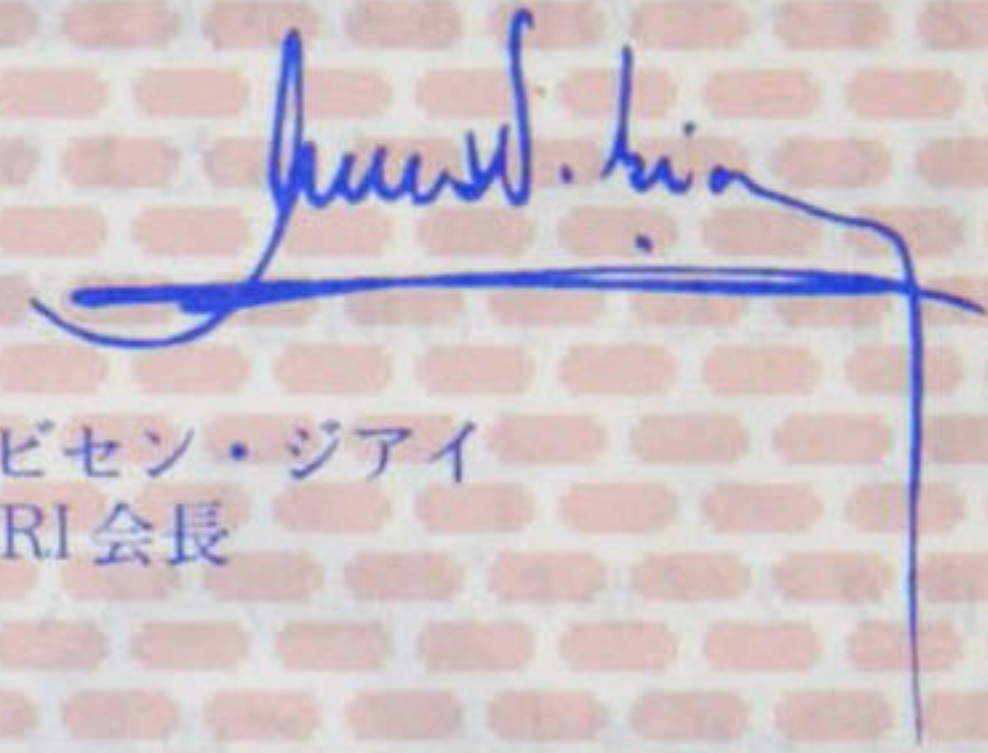




1996-97年度 RI テーマ



ルイス・ビセン・ジアイ
1996-97 RI 会長

■■■ 築け未来を 行動力と先見の眼で ■■■

第2560地区——吉 田 昭 平
 ガバナー——
 会 長——捧 賢 一
 会長エレクト——五十嵐 総 一
 副 会 長——細 井 増 雄
 幹 事——五十嵐 昭 一
 副 幹 事——佐 野 勝 栄
 S A A——菊 池 涉
 副 S A A——山 浦 日出夫

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~
 例会場及び——三条市旭町 2-5-10
 事 務 局 三条信用金庫本店内
 例 会 場——TEL 35-3311
 TEL 35-3477
 事 務 局——FAX 32-7095

本日出席会員数	78名中 54名
先々週出席率	96%

会長代理挨拶

五十嵐総一会長エレクト

ヴィジター

三条南より

渡辺一郎さん

先週のメイクアップ

6/2 三条南へ

広岡豊作さん、細井増雄さん、

古沢富雄さん、渡辺勝利さん

6/3 三条北へ

加藤紋次郎さん



ご挨拶申し上げます。今日は捧会長さん、細井副会長さん、高橋さん、石橋さんとすべての皆さんが休まれて、一ヶ月も早く次年度が始まったような気がしてなりません。予行演習で挨拶させていただきます。

南クラブから、渡辺さん、ようこそいらしゃいました。ごゆっくりと、おくつろぎ下さい。

皆さんのご協力で、無事に家庭会合も終わりました。引続き今日挨拶しますと、もう始まったような気がしますが、会長、幹事の慰労会が25日に予定されています。それからバトンタッチということになります、よろしく願いいたします。

6月は衣替えでございますが、6月からは私はもう、心替えと言うことに入っているようです。今日は1992回目の例会で2000回目の例会が間近になってまいりました。7月30日の例会が2000回目に当たります。今日は第一例会で、いろいろな行事が重なっております。荻野さんの卓話に十分な時間を取りたいと思い、このあたりでご挨拶を終らせて頂きます。ありがとうございました。

幹事報告

五十嵐(昭)幹事

◎佐渡RCより

1997～98年度新潟県会長、幹事会開催のご案内がとどいております。

日時 7月21日(月)

12:30～17:20

会場 佐渡開発総合センター

◎新発田城南、新発田RC周年記念合同実行委員会より

30周年、40周年合同記念式典出席お礼状がとどいております。

◎高木善之講演会実行委員会より

地球環境講演会「美しい地球を子供たちに」(三条クラブ後援)のご案内

日時 6月17日(火)

18:30開演

会場 三条市総合福祉センター

多目的ホール

ニコニコBOX



五十嵐総一さん

先日、皆様のご協力のもとで無事家庭会合が終了しました事、ありがとうございました。

小林英雄さん

うちのカミさんが草月いけばなを40年以上続けていたので、2つの賞をもらいました。①勅使河原宏家元より、草月栄誉賞 ②常隆宮妃華子総裁より日本いけばな芸術協会の功労賞の2つです。

林 光輝さん

小学校の予防接種の為、早退させていただきます。

松縄 弘さん

荻野さん、卓話御苦勞様です。

渡辺勝利さん

渋谷さん、榎本さん40周年のスナップ写真ありがとうございました。

荻野保和さん

卓話で好きな映画の話をしたと思います。少しだけ時間を下さい。

佐野勝栄さん

つたない幹事にての先週の3日間、家庭会合を無事終了させて頂き、ありがとうございました。皆さんのご協力に感謝申し上げます。



6月4日分

¥12,000

卓話

「映画と私」

荻野保和会員



最近の映画界の一番の話題は、カンヌ映画祭で今村昌平監督の「うなぎ」がグランプリを獲得したことでしょう。今村監督としては、1983年の「楢山節考」に次いで2度目の受賞となります。

浮気している妻を愛するあまり刺し殺して、8年の刑を終えて出所した男が人間不信に陥り、飼っている「うなぎ」を唯一の友としていたのですが、周囲の人の友情、愛情に触れて次第に心を開いていくという物語です。小市民がユーモラスに描かれており、心暖まる一作でした。

「うなぎ」といえば、この主人公を演じた役所広司の活躍ぶりは驚きです。今、公開中の「失楽園」(森田芳光監督)は、上映館が相次いで期間延長を決めているそうです。日経新聞の連載、単行本の出版、そして映画化とたたみかける相乗効果でメディア戦略が成功したといえます。

役所広司扮する窓際に追いやられた元エリートと美しい人妻の魂を揺さぶるような激しく哀しい愛の物語です。役所広司は、昨年も日本映画で一番の評価作「Shall we ダンス？」(周防正行監督)で映画賞の主演男優賞を総ナメにして、世のダンスブームに火をつけたばかりか、「眠る男」(小栗康平監督)、「シャブ極道」(細野辰興監督)といった評判作にも出演しました。今後も出演依頼が相次いでいるようで、斜陽といわれて久しい日本映画界の中で、全盛期並みに活躍の場がある数少ない俳優の一人です。

私は、どちらかというと外国映画党なのですが、最近劇場で観た新作の外国映画で印象深かったのは、本年のアカデミー受賞作「イングリッシュ・ペイシェント」(アンソニー・ミンゲラ監督)と昨年のカンヌ映画祭グランプリ「秘密の嘘」(マイク・リー監督)の2本です。「イングリッシュ・ペイシェント」は、心身共疲労している従軍看護婦が頻死の重傷で記憶喪失の英国人の患者を必死に看病して心が通じ合い、患者は消し去りたかった記憶を克服し、同時に看護婦も生きる喜びを取り戻していくという重厚なヒューマンドラマです。

「秘密と嘘」は、養父母の死後、実母を捜し出した黒人女性の出現で、彼女の出生の秘密や実母の家族関係にまつわる様々な嘘が暴かれていきますが、最後にはより絆が深まってハッピーエンドとなります。両方共、一見の価値ありです。

映画ファンといっても、近年1年間に観る映画の数は、大体、日本映画20本位、外国映画80本位、合計100本前後にしかありません。その内、劇場で2割、NHKの衛生放送と教育TVで2割、残りの6割はレンタルビデオです。ビデオを否定する向きもありますが、地方では観たい作品に巡り合える機会も限られているので、どうしてもビデオに頼ってしまいます。また途中でトイレや電話の用も足せるし、愛煙家としてはタバコが喫えるのもビデオの魅力の一つです。

作品の選び方は、新聞、映画雑誌、週刊誌の紹介記事によることが多いですが、お気に入りのスタッフ、キャストの作品は一応チェックしておきます。先程から話題にしている有名な映画賞の受賞作品も観ておかないと忘れ物をしたようで気持ち落ち着きません。また、人と話している時に映画が話題になったら、その人が今までで一番感銘を受けた作品を聞き出し、もし観ていなかったら観るようにしています。好きなジャンルは特にありません。ホラー映画以外は何でもOKです。最近アジア映画、中でも中国語の映画に勢いを感じています。1ヶ月後に中国返還となる香港映画がこれからどうなるか大いに気になるところです。

映画に目覚めたのは、中学3年生の時です。ナルシソ・イエペスのあまりにも有名なギター曲に引かれて「禁じられた遊び」を観に行き、恐らく生まれてはじめて感涙にむせびました。幼ないポール

レットが雑踏の中で「ミッシェル、ミッシェル」と叫ぶ、ラストシーンは一生忘れられません。それからは週末には映画館に通うようになり、特に東京で過ごした5年間は、今は無くなった新宿名画座、渋谷全線座、池袋文芸座などへ150円で夢を追いかけたものです。主に1人で観ていた映画をいつの頃からか2人で観るようになり、それが30年近くも続いています。一緒に見終わった後、感想を述べ合い、時には解釈の相違に口角泡を飛ばすことが楽しみでもあり、夫婦間のコミュニケーションを深めてもいます。

私のオールタイムベスト20

1. 2001年宇宙の旅 (68年 スタンリー・キューブリック)
2. シベールの日曜日 (62年 セルジュ・ブールギニョン)
3. ニュー・シネマ・パラダイス (89年 ジュゼッペ・トルナトーレ)
4. ライオンの娘 (70年 デビッド・リーン)
5. 禁じられた遊び (52年 ルネ・クレマン)
6. イヴの総て (50年 ジョゼフ・L・マンキーウィッツ)
7. ピアノ・レッスン (93年 ジェーン・カンピオン)
8. 十二人の恐れる男 (57年 シドニー・ルメット)

9. Z (69年 コンスタンチン・コスタ・ガブラス)
10. ソフィーの選択 (82年 アラン・J・パクラ)
11. 刑事ジョン・ブック/目撃者 (85年 ピーター・ウィアー)
12. パリ、テキサス (84年 ヴィム・ヴェンダース)
13. 市民ケーン (41年 オーソン・ウェルズ)
14. 天井桟敷の人々 (45年 マルセル・カルネ)
15. キリング・フィールド (84年 ローランド・ジョフィ)
16. 惑星ソラリス (72年 アンドレイ・タルコフスキー)
17. クライミング・ゲーム (92年 ニール・ジョーダン)
18. マイライフアズアドッグ (85年 ラッセ・ハルストレム)
19. ライム・ライト (52年 チャールズ・チャップリン)
20. さらば、わが愛/霸王別姫 (93年 チェン・カイコー)

1895年12月、パリでリュミエール兄弟がシネマトグラフを興行して100年が経ちました。この間、映画製作に関する技術は飛躍的な進歩を遂げましたが、TVの普及以来、映画館への入場者は激減の一途をたどり、1958年の11億2700万人をピークにして昨年は、1億2000万人とい

うことです。もっとも、VIDEOやLD、BS放送の進歩で映画自体はこの数倍は観られていると思いますが……。誰もが少年の日、或いは青年の日、映画館で胸が震えたり、涙が止まらなくて恥ずかしかったり、スクリーンのヒーローに自分を同化させて気分が高揚した経験を持っていることと思います。

忙中一閑あり。たまには、あの日に帰ってみませんか？

例会案内

三条RC	6月18日例会	卓話	宮尾栄一会員
	6月25日例会	会長・幹事慰労会	

メイクアップをどうぞ

三条南RC	6月16日例会	クラブアッセンブリー
	6月23日例会	クラブアッセンブリー

三条北RC	6月17日例会	会員卓話
	6月24日例会	会長・幹事慰労会

加茂RC	6月19日例会	夜の例会
	6月26日例会	クラブアッセンブリー

見附RC	6月19日例会	会員卓話
	6月26日例会	会長・幹事慰労会

燕RC	6月19日例会	クラブフォーラム
	6月26日例会	新旧役員交替慰労会